

2024 年卒  
Vol. 6

## 4 月 1 日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2024 学生モニター調査結果 (2023 年 4 月発行)

2024 年卒の採用広報解禁から 1 カ月。就職戦線はどのように進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、4 月 1 日現在の就職活動状況について調査を行った。前年同期調査や先月 (今年 3 月調査) の結果とも比較しながら、現状を分析する。

### 1. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 21.9 社。前年同期調査 (22.6 社) を下回る
- セミナー参加社数の平均は、オンライン 11.4 社、会場型 3.7 社

### 2. 企業セミナーの適切な所要時間

- 適切と思う時間は形式により異なる。会場型・ライブ配信に比べオンデマンドは短め
- 参加して不快だったこと、1 位「内容に乏しい」、2 位「時間が長すぎる」

### 3. 選考試験の受験状況

- ES 提出社数は平均 10.7 社で前年より減少。面接社数は前年をやや上回る (5.6 社)
- 過半数が「ES の締切が早過ぎて応募できなかった企業がある」と回答

### 4. 4 月 1 日現在の内定状況

- 内定率は 52.9%。前年同期実績 (46.5%) を 6.4 ポイント上回る
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の 1 割強 (16.4%)。大半が就職活動を継続

### 5. 内定を得た企業の業界

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中。文理とも 1 位

### 6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界 1 位「インターネットサービス」、2 位「情報処理・ソフトウェア」
- 今後の活動方針、「エントリー企業中心」(35.6%)、「新たな企業を探して幅を広げる」(29.2%)

### 7. SNS 利用状況

- 就活での SNS 利用者は 7 割強。「LINE」(49.6%)、「YouTube」(36.3%) の順

### 8. 就活の軸の決定度合い

- 現時点で「明確に決まっている」(48.8%)、「何となく決まっている」(40.4%)

### 9. 魅力を感じる採用形態

- 「総合職採用 (メンバーシップ型)」が最も、前年より減少 (47.8%→43.7%)

※「内定」には、内々定を含む

## 調査概要

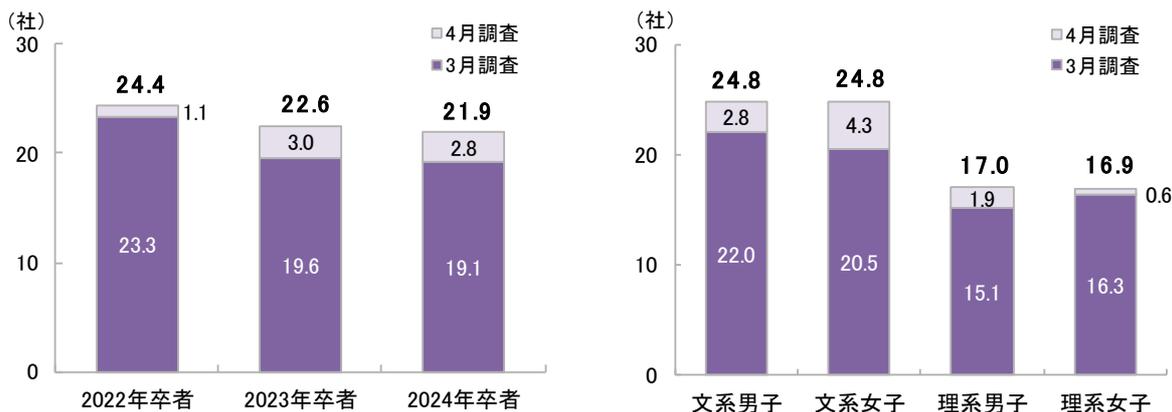
- 調査対象 : 2024 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)  
回答者数 : 1,256 人 (文系男子 402 人、文系女子 384 人、理系男子 318 人、理系女子 152 人)  
調査方法 : インターネット調査法  
調査期間 : 2023 年 4 月 1 日~5 日  
サンプリング : キャリタス就活 2024 学生モニター

## 1. エントリー社数とセミナー参加社数

企業の採用広報解禁から1カ月が経過した。2024年卒者の就職活動はどのように進行しているだろうか。4月1日時点の活動量から見てみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は21.9社。この1カ月で2.8社増えたが、3月調査に引き続き前年同期実績を下回る。文理男女別に確認すると、理系は男女とも20社未満で、文系に比べ活動量が少ないことがわかる。また、理系は男女とも前月からの増え幅も少ない。

＜エントリー社数＞

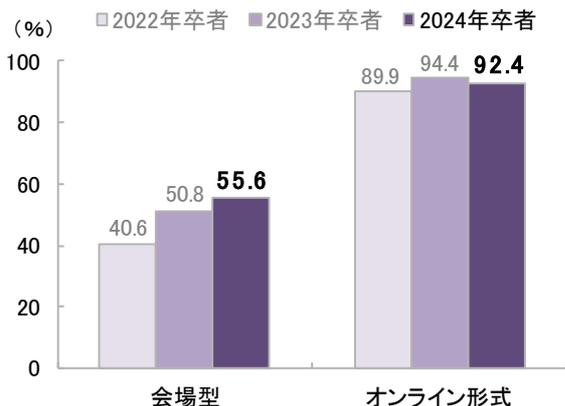


※各年4月調査

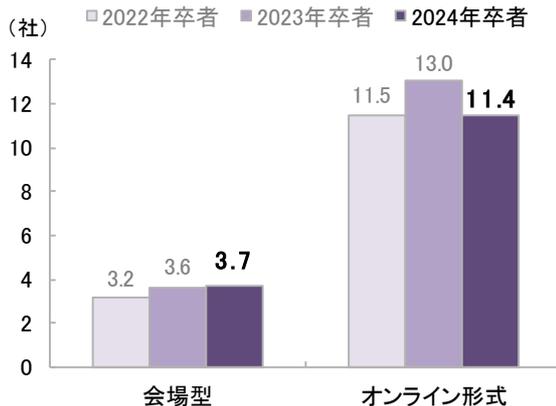
企業セミナー（会社説明会）の参加状況を、開催形式ごとに確認した。「オンライン形式（WEBセミナー）」の参加経験者は、全体の9割（92.4%）を超えている。一方、「会場型」に参加経験がある学生は、この3カ年で15ポイント増加した（40.6%→55.6%）。

参加社数は会場型が平均3.7社、オンライン形式は11.4社。会場型セミナーへの参加が徐々に戻ってきているが、オンライン形式が主流。

＜企業セミナー 参加・視聴経験＞



＜企業セミナー 参加・視聴社数＞



＜企業セミナー参加・視聴社数／属性別＞

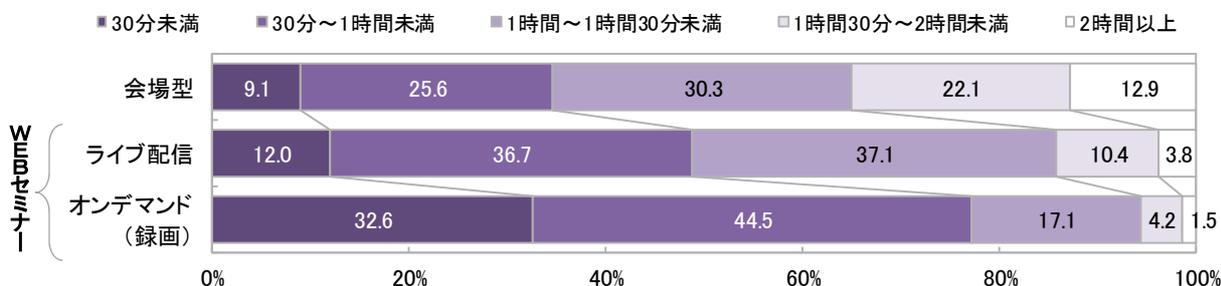
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	3.7	4.4	3.8	3.1	2.8
オンライン形式視聴社数	11.4	11.7	13.1	9.4	10.7

## 2. 企業セミナーの適切な所要時間

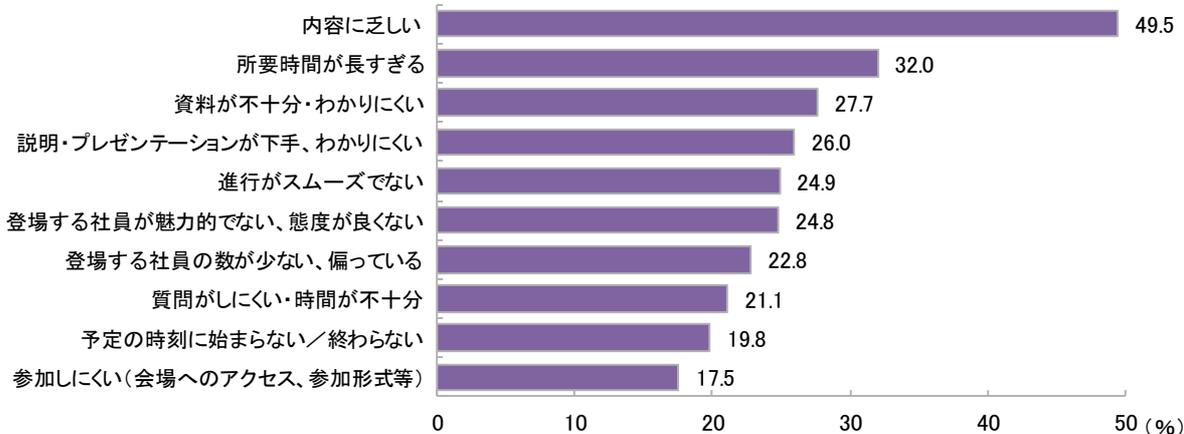
学生から見て適切だと思う企業セミナーの所要時間を形式別に尋ねた。まず会場型では「1 時間～1 時間 30 分未満」が最多だが (30.3%)、「1 時間 30 分～2 時間未満」が 2 割を超えるなど (22.1%)、他の形式に比べると長時間を選んだ学生が多い。ライブ配信も最も多いのは「1 時間～1 時間 30 分未満」だが (37.1%)、「30 分～1 時間未満」も同程度 (36.7%)。オンデマンド配信は 3 つの中で最も短く、「30 分未満」が 3 割を超え (32.6%)、1 時間未満を合計すると 8 割近くに上る (計 77.1%)。双方向のコミュニケーションができない録画形式では、短時間での開催を求める学生が圧倒的に多い。

なお、実際に参加 (視聴) したセミナーで不快に思ったことを複数回答で尋ねたところ、「内容に乏しい」(49.5%) に続き、「所要時間が長すぎる」(32.0%) が 2 番目に挙げられた。効率的に企業研究を進めたい学生が多いことが、このデータからもうかがえる。

＜企業セミナーの適切な所要時間＞



＜企業セミナーで不快に思ったこと＞



※全18項目からあてはまるものをすべて選択。うち、上位10位まで ※不快に思ったことがある者が回答

### ■実際に参加したセミナーの感想

#### 【印象がよかったもの】

- コースの説明がしっかりあり、質問の時間も豊富だった。本社のオフィスツアーも面白かった。 <文系男子>
- 若手の方からベテラン社員まで、様々な方のお話を聞くことができ、働くイメージが湧いた。 <理系男子>
- オンラインでも社員同士のやり取りを積極的に行い見せてくれ、人柄が伝わってきた。 <理系女子>
- 資料やパンフレットは後日メールで配布してくださったため、聞くことに集中できた。 <文系男子>

#### 【印象が悪かったもの】

- ホームページの会社紹介にあるような内容ばかり説明されたから。 <理系女子>
- 台本を読んでいるだけで何も伝わらなかった。 <理系男子>
- 何の説明もなく予定時間を 30 分ほど超過した。 <文系女子>

### 3. 選考試験の受験状況

調査時点でエントリーシート (ES) 提出者は9割超 (93.3%)。一人あたりの提出社数は平均10.7社で、前年同期 (11.4社) をやや下回る。あらかじめ提出企業を絞り込んでいるだけでなく、早期化する企業の動きに対応できていないケースもあるようだ。過半数が「締切が早過ぎて応募できなかった企業がある」と回答した (計52.0%)。

面接試験の社数は前年をやや上回る (5.4社→5.6社)。最終面接を経験した学生が前年より増え、早くも6割を超えている (57.2%→64.8%)。選考のタイミングが前倒しになっている様子が見て取れる。

面接受験者のうち、WEB面接の経験者は今年も9割を超える (95.4%)。一方で、対面での面接経験者が前年より大きく増加しているのが目立つ (56.6%→71.0%)。オンラインを軸にしながらも、最終面接など選考が進んだ学生には対面で面接を実施する企業が増えていると見られる。

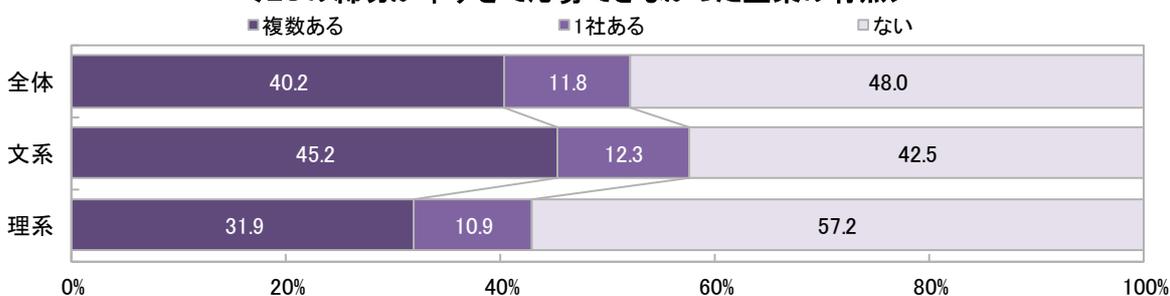
#### <選考試験の受験状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	93.3	92.3	92.3	94.3	92.7	94.7
筆記・適性テストを受けた	91.2	90.7	92.3	91.7	89.6	90.7
面接試験を受けた	88.2	85.4	87.5	88.5	87.7	90.1
最終面接を受けた	64.8	57.2	61.8	59.6	71.3	72.2

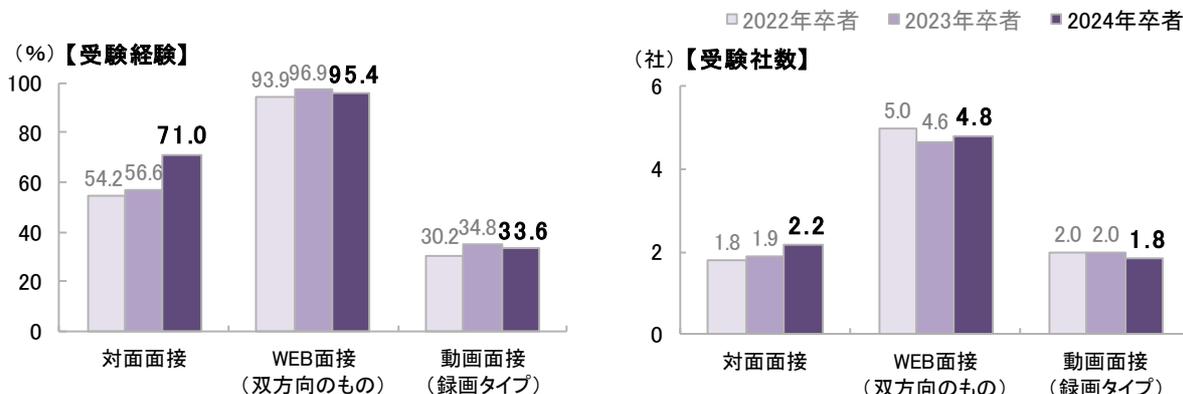
#### <選考試験の受験社数>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	10.7	11.4	12.0	11.7	8.5	9.3
筆記・適性テストを受けた	7.5	7.7	8.5	8.0	6.3	6.3
面接試験を受けた	5.6	5.4	6.3	5.8	4.9	4.8
最終面接を受けた	1.6	1.5	1.6	1.4	1.9	1.6

#### <ESの締切が早すぎて応募できなかった企業の有無>



#### <形式ごとの面接受験状況>



※面接試験経験者が分母

※1つの企業で複数の形式で受けた場合は、それぞれの形式に1社とカウント (例:1次がWEB、2次が対面)

※それぞれ受験者を分母に平均社数を算出

#### 4. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の52.9%。先月(3月1日)の32.4%から1カ月間で20.5ポイント増え、過半数に達した。前年同期(46.5%)に比べ6.4ポイント高く、かなり早いペースで進行。採用広報解禁後に一気に加速した様子が表れている。文理男女のいずれも前年同期実績を上回るが、理系は文系より10ポイント程度高く、進行の早さが顕著。

内定を得た企業の7割(70.1%)がインターンシップ等<sup>(※)</sup>のプログラムに参加していた企業。月を追うごとに比率は下がっているが、非参加企業からの内定はまだ多くはない(グラフは次ページに掲載)。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは31.0%で、前年同期(33.7%)をやや下回る。内定取得後も6割強は就職活動を続けていると回答した(64.2%)。ただし、理系は内定取得者の4割超が就活を終了するなど、内定獲得後の決定状況も文理での差が目立つ。

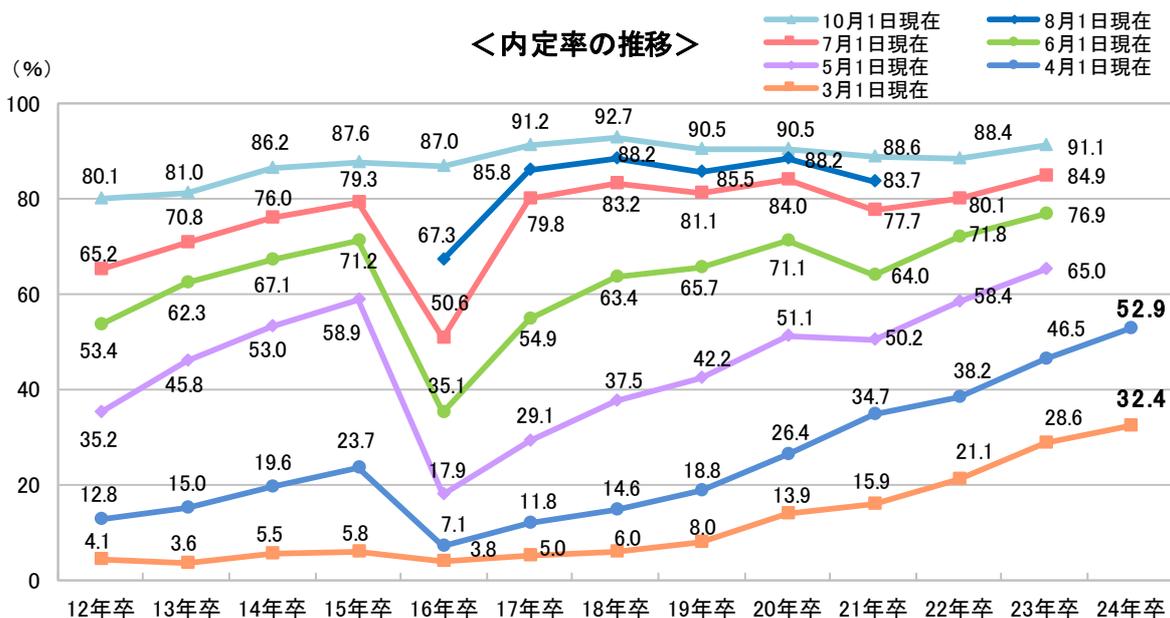
(※1日以内のプログラムも含めて調査)

#### <4月1日現在の内定状況>

		全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		52.9 (46.5)	49.8 (38.7)	48.7 (44.7)	58.5 (54.9)	60.5 (56.5)
内定なし		47.1 (53.5)	50.2 (61.3)	51.3 (55.3)	41.5 (45.1)	39.5 (43.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	31.0 (33.7)	20.5 (19.4)	21.4 (23.0)	47.3 (53.1)	40.2 (43.2)
	活動は終了したが複数内定保持	4.5 (4.4)	4.5 (5.9)	3.7 (3.6)	5.4 (3.9)	4.3 (4.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (0.3)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.5 (0.6)	1.1 (1.4)
	就職活動継続	64.2 (61.6)	75.0 (74.7)	74.9 (73.3)	46.8 (42.5)	54.3 (51.4)

	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均	1.8 (1.8)	1.7 (1.8)	1.8 (1.7)	1.8 (2.0)	1.8 (2.0)

※ ( ) 内は前年(4月1日現在)の数値



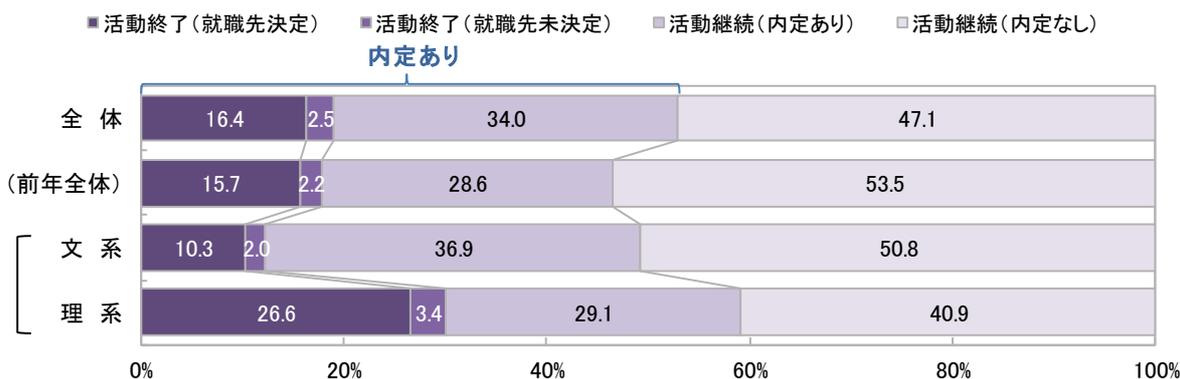
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~24卒は6月 ※15年卒以前と22卒は8月のデータはなし

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は 16.4%。内定取得者における就職先決定者の割合は低下したが、内定率自体が上昇したことにより、前年同期 (15.7%) より微増した。

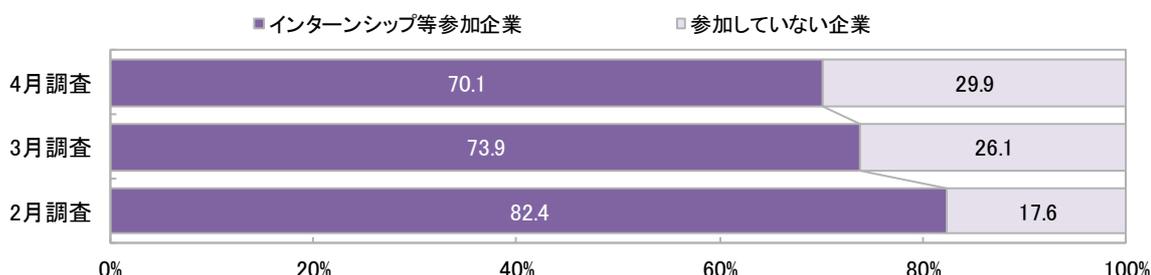
複数内定を保留しているなど未決定である者 (2.5%) を合わせると、終了者の割合は 2 割弱となる (計 18.9%)。

ただし、文理で差が大きく、文系の終了者は 1 割程度であるのに対し (計 12.3%)、理系学生は 3 割が終了したと回答した (計 30.0%)

### <活動状況の分布>



### <内定を得た企業のインターンシップ等参加>



※1日以内のプログラムも含む

## 5. 内定を得た企業の業界

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が 25.0% で最も多く、2 位「調査・コンサルタント」、3 位「建設・住宅・不動産」と続く。3 位までは前年と同じ顔ぶれだ。

「情報処理・ソフトウェア」は文理別でも 1 位で、文系理系問わず多くの内定が出ていることがわかる。

### <内定を得た業界 (上位 5 業界) >

全体		文系		理系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	25.0	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	23.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト
2	調査・コンサルタント ②	14.4	調査・コンサルタント	17.6	電子・電機
3	建設・住宅・不動産 ②	14.3	専門店	16.5	建設・住宅・不動産
4	電子・電機 ⑤	10.4	建設・住宅・不動産	12.4	自動車・輸送用機器
5	専門店 ⑧	10.2	その他サービス	10.3	素材・化学

※○の中の数字は前年同調査の全体順位

※「その他サービス」= 介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

## 6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の 81.1%）の動向を確認したい。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、最も多いのは「情報・インターネットサービス」（18.7%）。僅差で「情報処理・ソフトウェア」（18.3%）が続く。IT 業界の人気は序盤から高かったが、4 月時点でも引き続き多くが志望している。とりわけ男子において志望者が多い。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、文系女子の 1 位、文系男子で 2 位。理系は IT 以外ではメーカーが上位に多く、男子は「電子・電機」が 1 位で、4 位に「素材・化学」と「自動車・輸送用機器」。理系女子は「水産・食品」に人気集中している。

### <就職活動継続者の志望業界（上位 10 業界）>

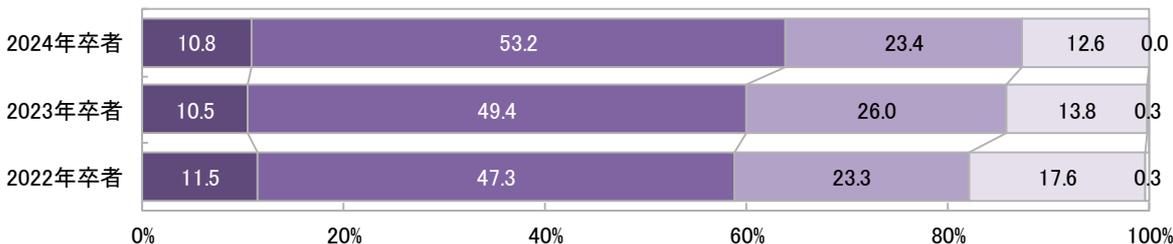
		※5つまで選択 (%)				
	全 体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	
1	情報・インターネットサービス ② 18.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 23.6	銀行 19.7	電子・電機 26.7	水産・食品 35.0	
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 18.3	情報・インターネットサービス 20.6	マスコミ 19.4	情報・インターネットサービス 23.8	医薬品・医療関連・化粧品 26.0	
3	銀行 ④ 15.4	銀行	情報・インターネットサービス 15.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	素材・化学 24.0	
4	水産・食品 ③ 13.0	調査・コンサルタント 13.2	官公庁・団体 14.2	素材・化学 16.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.0	
5	建設・住宅・不動産 ⑤ 11.5	建設・住宅・不動産 12.8	商社（総合） 11.8	自動車・輸送用機器	情報・インターネットサービス 14.0	
6	官公庁・団体 ⑥ 11.4	官公庁・団体 12.5	商社（専門） 11.4	機械・プラントエンジニアリング 15.3	官公庁・団体 13.0	
7	電子・電機 ⑫ 11.2	運輸・倉庫 11.5	水産・食品 11.1	水産・食品	精密機器・医療用機器 10.0	
8	マスコミ ⑪ 10.6	商社（総合）	建設・住宅・不動産 10.7	建設・住宅・不動産 12.4	農業・林業・鉱業 8.0	
9	調査・コンサルタント ⑦ 10.0	エネルギー 10.5	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	医薬品・医療関連・化粧品	建設・住宅・不動産 8.0	
10	素材・化学 ⑧ 9.9	商社（専門） 10.1	運輸・倉庫 9.3	精密機器・医療用機器 11.9	銀行 7.0	

※○の中の数字は前年同期調査の順位

内定を持ちながら就職活動をしている学生（全体の 34.0%）に、内定企業をどう位置付けているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは約 1 割（10.8%）。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答が過半数に上り（53.2%）、入社に前向きながらも、より志望度の高い企業の結果次第という学生が多いことがわかる。

### <内定を得ている企業の位置づけ>

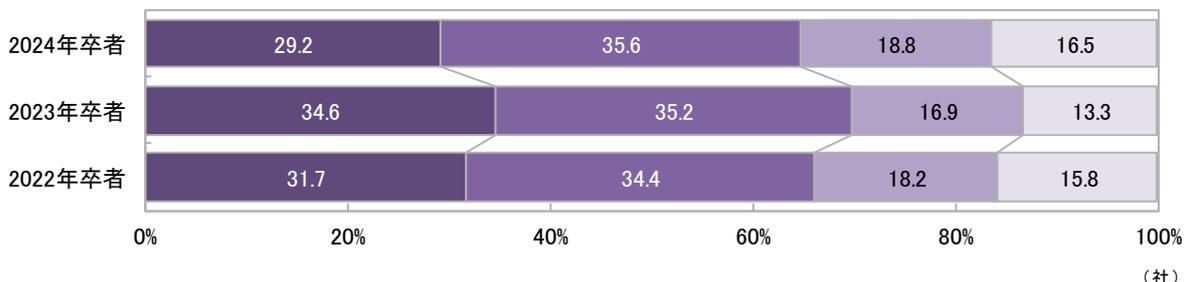
- 満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う
- それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う
- 満足度は高くないが、他に内定が出なければ、この企業に入ると思う
- あくまで押さえであり、実際にこの企業に入ることはないと思う
- その他



就職活動を継続している学生に、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「これまでに興味をもった企業（エントリーした企業）を中心に活動する」(35.6%)。次点は「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」が約3割で続く (29.2%)。選考が進み、企業を絞って活動する学生がいる一方、受験企業を広げることを視野に入れ、意欲的に企業探しを行う姿勢の学生もみられる。

### ＜今後の就職活動の方針・戦略＞

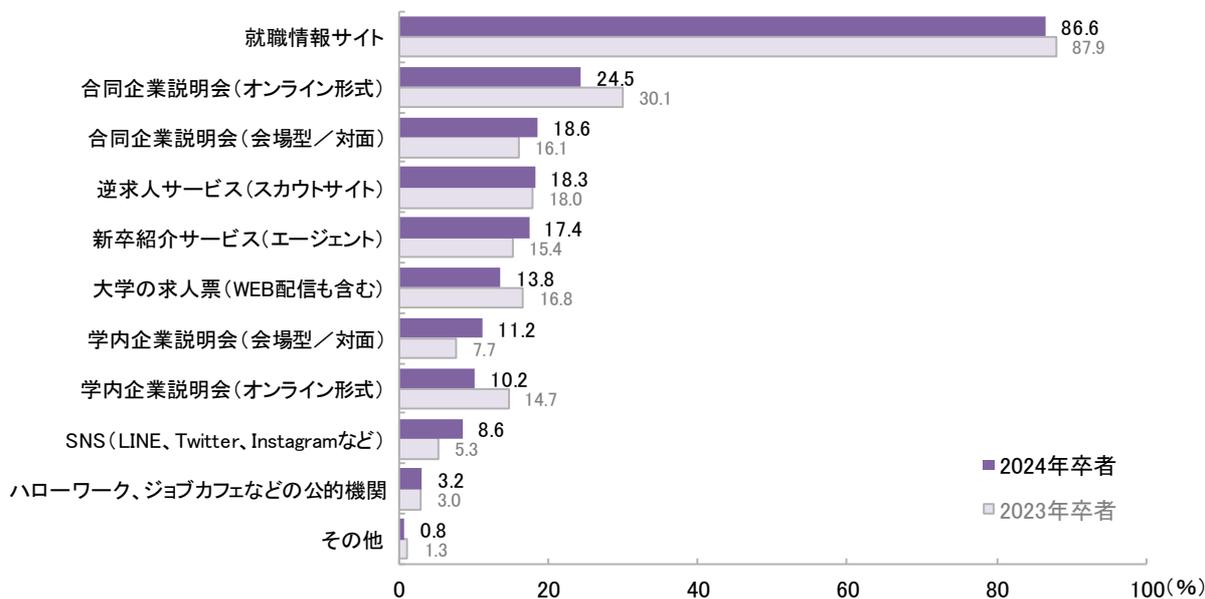
- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する



	全体	(2023年卒者)	(2022年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	5.6	6.1	6.6	6.1	5.9	4.7	4.9
今後のエントリー予定社数	4.1	5.0	5.2	5.2	4.2	3.0	2.7
今後の企業セミナー参加予定社数	3.3	3.9	3.6	3.8	3.8	2.3	2.2
今後のエントリーシート提出予定社数	4.3	5.0	5.2	5.0	4.9	2.9	3.3

今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねると、「就職情報サイト」が 9 割近くに上り圧倒的に高い (86.6%)。ここに「合同企業説明会（オンライン形式）」「合同企業説明会（会場型／対面）」が続く (24.5%、18.6%)。他にも、「逆求人サービス」(18.3%)、「新卒紹介サービス」(17.4%) などのサービスを利用するという学生も一定数みられる。

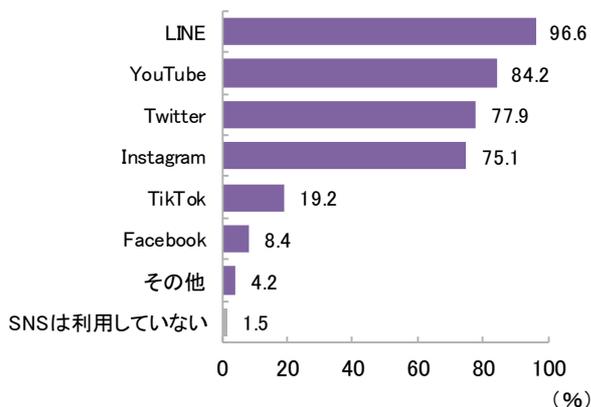
### ＜新たな企業を探す手段＞



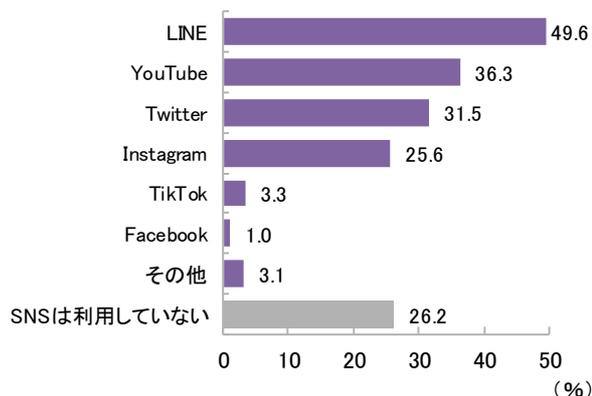
## 7. SNS 利用状況

就職活動の情報収集手段として、SNS の活用も定着しつつある。「就職活動で SNS は利用していない」は 2 割強にとどまり (26.2%)、大半の学生が利用していることがわかる。最も利用率が高いのは「LINE」で、約半数に上る (49.6%)。企業の公式アカウントからの情報収集や、応募企業からの連絡ツールとして利用するケースが多いようだ。「YouTube」は 3 割強 (36.3%) で、動画を通じて企業研究を進めるほか、面接等の選考対策をする学生も少なくない。日常生活での利用率の高いものは、就職活動での利用率も高く、様々な手段で情報収集を行っている様子が見て取れる。

＜日常生活で利用しているSNS＞



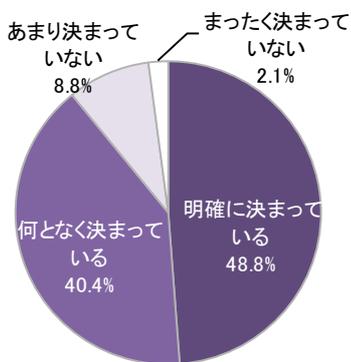
＜就職活動で利用しているSNS＞



## 8. 就活の軸の決定度合い

現時点で、就職活動の軸や、企業選びの基準がどの程度明確になっているかを尋ねた。「明確に決まっている」という学生が最も多く、5 割弱 (48.8%)。「何となく決まっている」という学生は 4 割 (40.4%)。本選考に応募する企業を選定するため、また、エントリーシート記入や面接に備えて、軸を固めていった学生が多いのだろう。ただし、就職活動が進むにつれ、迷いが生じている学生も見られる。文理別に見ると、理系は「明確に決まっている」が約 6 割 (59.6%) で、文系より 20 ポイント近く高い。

＜就活の軸の決定度合い＞



	(%)	
	文系	理系
明確に決まっている	42.4	59.6
何となく決まっている	45.5	31.7
あまり決まっていない	9.7	7.2
まったく決まっていない	2.4	1.5

### ■学生の声

- 約 1 年間就職活動を行い、自分自身と社会について考えてきたので明確に決まっている。 <理系女子>
- 自分のやりたいことをベースに考えている。給与や福利厚生、ワークライフバランスといった待遇は多少考慮するが、最重要の要素ではない。 <文系男子>
- 大学で学んだ内容を活かせること、多くの人と関わり、多くの人に影響を与えられる仕事。 <理系男子>
- より年収が高く、福利厚生も充実し、労働量が多くない企業で探している。ただし業界は絞れていない。 <理系男子>
- 休みがもらえるホワイト企業ならどこでもいい。 <文系女子>
- 決まっているつもりでも、深掘りされた際に答えられないこともある。 <文系女子>
- 就活の軸や企業選びの基準は明確だが、面接がうまくいかず、迷いが生じている。 <文系男子>

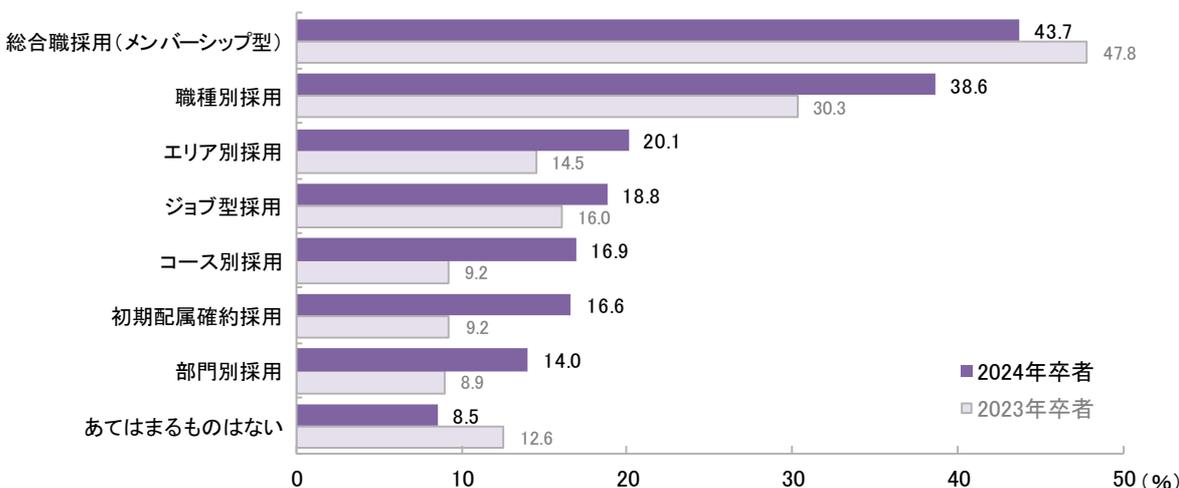
### 9. 魅力を感じる採用形態

新卒採用においてジョブ型を導入する企業は増加傾向にあるが、学生がどのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ねた。最も多いのは「総合職採用（メンバーシップ型）」で、4 割超が選んだ（43.7%）。次いで「職種別採用」（38.6%）が続く。「ジョブ型採用」は 2 割弱（18.8%）。

前年調査と比較すると、「総合職採用」のポイントがやや減少し、それ以外の項目はポイントが伸びているのが特徴的。幅広い業務を経験したい、働きながら適性を見極めたいという理由から「総合職」を志望する学生が依然として多いものの、職種やエリアを限定して、入社後のイメージやキャリアパスを明確にしたいと考える学生が増えていることが読み取れる。

なお、属性別に差が見られ、「総合職」は文系の方が高く、「職種別採用」や「ジョブ型」は理系の方が高め。「エリア別採用」は文理ともに男子より女子の方が高い。

＜魅力を感じる採用形態＞



	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
総合職採用(メンバーシップ型)	43.7	54.5	49.0	34.3	21.7
職種別採用	38.6	29.6	33.9	45.3	60.5
エリア別採用	20.1	15.7	31.3	11.3	21.7
ジョブ型採用	18.8	18.2	14.1	26.1	17.1
コース別採用	16.9	16.2	14.8	18.2	21.1
初期配属確約採用	16.6	14.7	14.3	19.8	21.1
部門別採用	14.0	12.7	11.5	18.6	14.5
あてはまるものはない	8.5	10.2	7.3	8.5	7.2

#### ■希望する採用形態について

- 現時点では興味が分散しているため、総合職として入社し、色々な経験を積みたい。 <文系男子>
- いろいろな仕事が経験できる方が、キャリアを通してのスキルアップにつながると感じる。 <文系女子>
- 様々な職種を経験したいため、職種を絞らない採用形態の方が魅力を感じる。 <理系女子>
- 総合職とエリア職で待遇や年収が変わらなければ、エリア型で入社したい。 <文系女子>
- 転勤とか配属替えで知らない仕事になるより、一つの仕事を突き詰める方が良い。 <理系女子>
- 勤務地が決まっている方が生活する計画を立てやすい。職種が決まっている方が自分のやりたいことをでき、専門性を持ると感じる。 <文系女子>
- 同じ職能の経験を長く積んだ方がより市場価値が高くなると考えている。 <文系男子>
- 専門性を身に付けたいからジョブ型がいい。 <理系男子>
- 仕事や生活が想像できるものの方が魅力を感じる。 <理系女子>